

## 教員推薦図書 2021年3月

推薦教員	経営学科 教授 田中 真理子 先生	<b>【推薦コメント】</b> 2024年新1万円札のデザインで肖像となることが決まった渋沢栄一は、大河ドラマ「青天を衝け」でも取り上げられ注目されている。1万円札では、聖徳太子・福沢諭吉について、3人目の肖像となる渋沢栄一について、多くの人が興味・関心を抱いているということになるだろう。 ここで紹介する『論語と算盤』は、渋沢の文章を現代仮名遣い・常用漢字に改めたものなので、私たちにもたいへん読みやすくなっている。幕末に埼玉県深谷市の農家に生まれた栄一は第一国立銀行をはじめ500社もの企業の創立と発展に寄与することになったわけだが、どのような人物で、その心のあり方はいかようなものだったのだろうか。文面からは経営者としての「算盤」だけでなく、「論語」をはじめとする広い教養に支えられていたことが見えてくる。 私たちは自分の生きている現在こそ最も文化的に進んでいると考えがちである。しかし、果たして我々は「論語」の何文字を理解しているだろうか。前近代といわれる時代に生まれても、意欲さえあれば今にも負けない学問と教養、そして道徳的な生き方を手に入れることができるのだということをこの本は明瞭に示しており、なかなか感慨深い。晩年は、本学近くの飛鳥山に居を構えた渋沢栄一の思いを辿って理解してみることをお勧めする。皆さんの生き方に一石を投じてくれることだろう。
書名	論語と算盤 (角川文庫)	
著者名	渋沢栄一著	
出版社	角川学芸出版	
請求記号	335.13 / Shi	
資料ID	901103874	